

形が刻まれていた。16:45国道399号に出て下降終了とする。

【タイム】 下降開始(16:15)→下降終了(16:45)

赤津
ウド沢(仮称)左俣

1983年6月4日

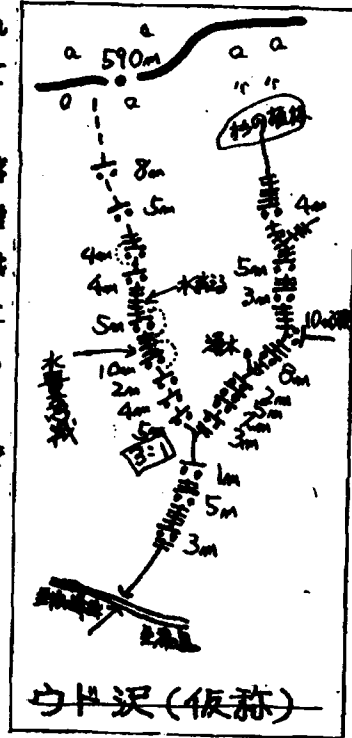
15:30遊行開始。5m滝は真中の水の流れていない所を直登し、5分で二俣まで行きつく。

左俣に入るとすぐ5mの滝が出てくる。直登する。その先にも滝が続く。そして10m滝。これは左岸を捲いて上に出る。ここまできたら水量は急減した。そしてその先の5m滝の左岸を捲いて上に出た所で、水の流れは消えてしまった。その中を沢は細いトイ状となっておも続けている。

岩の上に葉を小さく巻いたような形のもの多数落ちていた。オトシブミだ。「落し文」に由来する優雅な名前をもつ小さな甲虫が、せっせと葉を巻いて子供のためにエサと居室を準備したものである。人の目にふれないこんな山奥にも子孫繁栄のための営みがひっそりと続けられている。

沢は所々藪がかかるようになった。もうおしまいである。16:05沢から離れてやぶごぎに入る。10分程で尾根に出た。

【タイム】 ウド沢出合(15:30)→二俣(15:35)→遊行終了(16:15)



赤津沢

赤津
ウド沢(仮称)右俣(下降)

1983年6月4日

14:15下降開始。実はこの時点では小スリバチ沢に入ったつもりであった。尾根

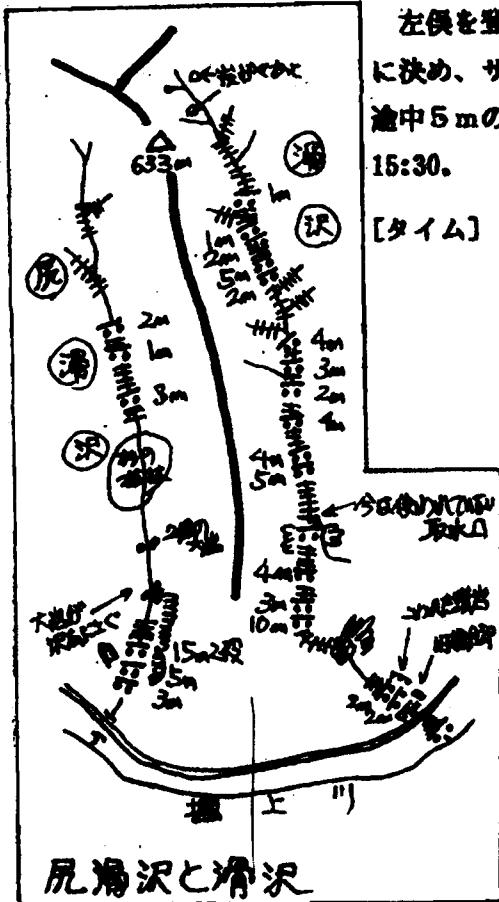
1本の道であるが、稜線上でおおざっぱな地形確認をただけで下りはじめたのが失敗のもとだった。途中まで下って憂だと思いはじめ、左俣が合流した所で、ウド沢を下ってしまったのだとはっきり自覚した。

雑木林をぬけると笹原となり、その下は手入れの悪い杉の植林地となっていた。このあたりあちこちにウドがかたまって生えており、もう少し早くくれば良かったと悔やむ。

14:30水流が出てきて、いよいよ本格的な沢下りとなる。小滝が出てくるが、ブッシュを利用して簡単に下る。この沢もナメが発達している。

やがて8mの滝。右岸をクライミングダウンする。この先で岩質が変わった。花崗岩が一度バラバラになりかけた所で再び固まったという感じの岩質となる。そして小滝が続く。

15:20二俣。左俣の方が水量はぐっと多い。この時点で自分がウド沢(仮称)を下ってしまったとはっきり確認できる。



左俣を登り返し、予定通り小スリバチ沢を下ることに決め、ザックを置いて、国道399号まで偵察に出る。途中5mの滝があり、右岸を捲いて下った。国道到着15:30。
(記)

[タイム] 下降開始(14:15)→二俣(15:20)→国道(15:30)

尻湯沢 1983年5月28日

10時35分下降開始。10分程下ると沢に出た。こちらの方の沢もすぐ小滝をまじえたナメが出てくるが、下降に困難な所はない。やがて沢が急に明るくなる。杉の植林地である。管理が悪いのか、大雪に痛めつけられたのか、曲がってしまったり、枝折れした杉が、ブッシュに負けまいと精一杯頭をもたげていた。